

# 総合教養講座開かれる 生き方は、十人十色



▲ご参加いただいた講師のみなさん

今年度の講座は3つのセッションに分けて行われた。1つ目のセッションでは事前に決められた9人前後のグループに分かれ、指定された講師の話聞いた。2つ目と3つ目のセッションではそれぞれの生徒が話を聞きたい講師のところに

12月8日に本校体育館で『私たちは、どう生きるか』と題した総合教養講座2018が開催され、2年生が参加した。今回は33名の本校OBが講師として来校され、生徒たちは大学受験や仕事についての話に耳を傾けた。



速報新聞

## キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部  
彦根市金亀町4番7号

▶北川さんは「動くこと、考えることをやめないで」と訴えられた。



今年8月にアメリカのボストンから大分県別府市に移住されたという西岡津世志さんは「自分は大学に行かずに芸人になったが、彦根東高校に来て進路の選択肢が広がった。本当の就職活動はやりた

行き、さまざまな職種の講師からアドバイスを受けた。講演中はたくさん質問が飛び交い、終始にぎやかな雰囲気であった。  
今回の講座の司会進行をされていた北川雄士さんは「生徒のノリが良くなっている印象を受けた。話を前向きに聞いてくれる生徒も多かった」と笑顔を見せられた。また生徒に向けて「大学に入るとさまざまな情報に触れることができ、迷うことも多くなる。だから早いうちに社会や自分自身と向き合ってほしい」とメッセージを送られた。

「初めてのときは必ず失敗するし、後悔もすると思うが、それらは決して悪いことではない。後悔は次へのやる気につながるから、失敗や後悔も楽しんでほしい」とアドバイスされた。  
東海旅客鉄道株式会社に務める久保康一郎さんは「最初は公務員になろうと思っていたが、鉄道が好きだったので、この会社に就職した」と打ち明けられた。続けて「好きなことを仕事にできるととても楽しいから、将来に不安を持たないでほしい」と強調された。



▲生徒たちは講師の生き方に感銘を受けた。